

令和5年度成果と令和6年度取組のハイライト

①ISCNの目標と取組方針

2024年3月26日



国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
核不拡散・核セキュリティ総合支援センター（ISCN）

令和5年度第2回核不拡散科学技術フォーラム

ISCNの取り組み方針

JAEAの新たなビジョン“「ニュークリア×リニューアブル」で拓く新しい未来”は原子力(ニュークリア)と再生可能(リニューアブル)エネルギーが融合することで実現する新しい持続可能(サステナブル)な未来社会であり、原子力を国際的に最大限活用して脱炭素社会の構築を目指す。二面性を有する原子力を平和的利用に限定し、サステナブルなものとするために核不拡散・核セキュリティの取組は必須である。

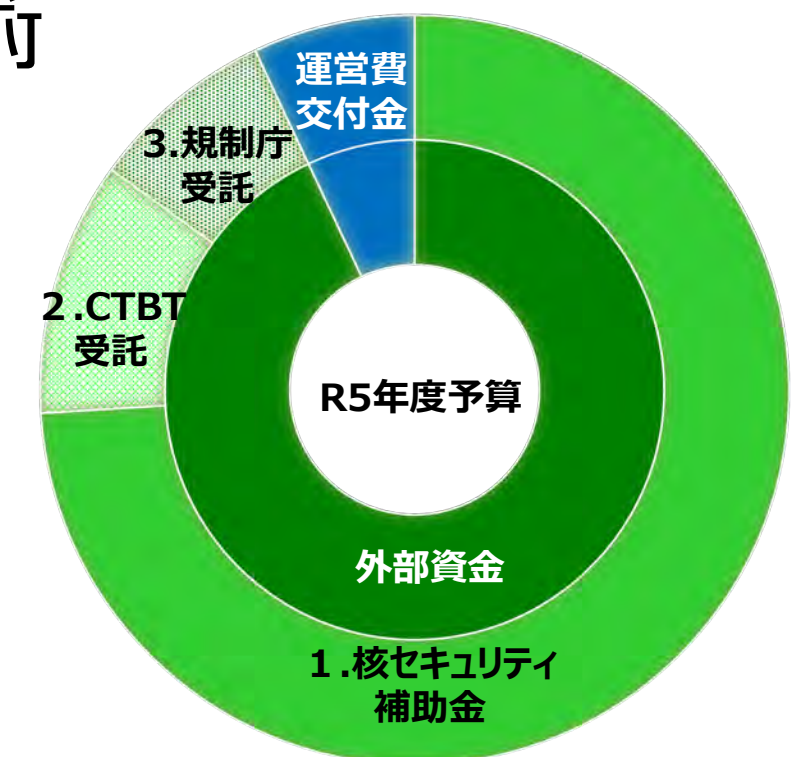
ISCNはIAEA等との連携を確保しつつ、技術開発、人材育成支援、包括的核実験禁止条約(CTBT)検証体制への支援及び政策研究を通じて核不拡散・核セキュリティの強化及び非核化への貢献を行い、「核拡散や核テロの脅威のない世界の実現」を目指す。

令和6年度の課題と対応

- ◆核兵器・核テロのない世界の実現及び原子力をサステナブルにするための国の政策の実施、国際機関の取り組みの支援の円滑な実施
- ◆核不拡散・核セキュリティを取り巻く課題、環境変化への対応

核兵器・核テロのない世界の実現及び原子力をサステナブルにするための国の政策の実施、国際機関の取り組みの支援の円滑な実施

1. 文科省核セキュリティ補助金に基づく、技術開発及び人材育成支援業務の円滑な実施を通じた国際的な核不拡散・核セキュリティ強化への貢献
【技開室、能力室】
2. CTBTO及び国問研からの受託に基づく、CTBTに係る国際検証体制への貢献
【CTBT室】
3. 規制庁からの受託に基づく、国内核セキュリティ規制に対する技術的支援
【計画管理・政策調査室、能力室】
4. 国内外の核不拡散・核セキュリティに関する動向調査、本分野の重要性に対する理解増進のための取組
【計画管理・政策調査室】



不拡散・核セキュリティを取り巻く環境変化への対応

- ウクライナ危機に起因する核不拡散・核セキュリティに関する課題のうち我が国にとって優先度が高いものを特定し、JAEA/ISCNとして取り組むべきテーマ、対応方針とアウトプット目標を明確化する。
- 検討プロセス：
 - ① ウクライナ危機に起因する核不拡散・核セキュリティに関連するシナリオ分析を実施
 - ② シナリオ分析を踏まえ、我が国の原子力平和利用やJAEAの取組みへのリスクの観点から優先すべき主要課題を抽出・特定
 - ③ その上で、次項を考慮しつつ、JAEA/ISCNとして取り組むべきテーマ、対応方針とアウトプット目標（中間的なものも含む）を明確化
- 抽出・特定した主要課題：
 - 1. 武力攻撃からの原子力施設の防護方策
 - 2. 原子力平和利用の推進方策
 - 3. 核物質の流出防止、管理強化方策
 - 4. 日本の核燃料サイクル政策に対する理解促進